

さわしい能力・適性等を多面的・総合的かつ公正に評価し、積極的に受け入れる。

栄養学専攻・博士前期課程

教育理念・目標

栄養は生命の維持にとって基本的な要素であり、生涯を通じて、健康の維持増進、疾病予防、疾病治療など、さまざまな状態における食事のあり方が重要である。これらに対応するためには、科学的根拠に基づく個別の栄養ケアや地域に応じた栄養施策が必要となる。また、理論を実践するには、人間を理解するための行動科学や人々を取り巻く社会環境を理解しなければならない。本専攻においては、栄養学の実践に照準を定め、地域で生活する人々への生活支援としての栄養ケアのためのエビデンスの構築と、エビデンスに基づいた実践活動ができる人材を育てる事を教育の理念・目標として定める。

【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

栄養学専攻博士前期課程は、本専攻の教育理念・目標に掲げる、以下に示す能力を身に付け、所定の単位を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に、修士（栄養学）の学位を授与する。

身に付けるべき能力

1. 得られた学術的知見を社会で積極的に展開、実践するために必要な方略を身に付けている。
2. 問題解決に必要な論理的思考力を身に付け、関係各方面と連携し、協調・協働しつつ対応する能力を身に付けている。
3. 習得した学術的スキルを通して、社会問題の理解及び課題解決に取り組み、食の分野から人々を支援し、社会の活性化に貢献できる能力を身に付けている。

【教育課程編成・運営方針（カリキュラム・ポリシー）】

教育課程編成の方針

本専攻では、栄養学を基盤として、栄養学の実践としての生活支援を行うことができる高度な専門的技術者の養成を行う。学部で身につけた栄養学の知識を基礎として、現状の分析に基づいた個別の栄養ケアと、他職種の専門分野を理解した包括的な栄養ケアが実践できるようになることを目指すために次のような教育課程編成をおこなう。

- ・生活支援科学特論を、他専攻の学生と共に学ぶことで、生活支援科学を俯瞰的に捉える視点を養う。
- ・学部レベルの学問をさらに深化させるための専門科目を基礎分野から専門分野まで幅広く配置している。
- ・これらの講義と平行して、入学当初から栄養学に関わる研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究の計画、実施、論文作成を行い、研究の方法を身につける。
- ・ティーチングアシスタント制度によって、教育の一端を担うことにより、教育の実施方法や教材等の作成の体験ができるような体制を整えている。

教育課程運営の方針

上記の教育課程を、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため履修モデル等で明示する。

【入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）】

栄養学専攻では、以下のいずれかの要件を満たす者を積極的に受け入れる。

1. 栄養学に関する専門職としての高度な実践力を磨きたい者。
2. 栄養系の資格をもとに実践現場で活躍している者で、現場から醸成された実際的な問題を解決したいと考えている者。
3. 栄養学について深く学び、研究したいと考える者。